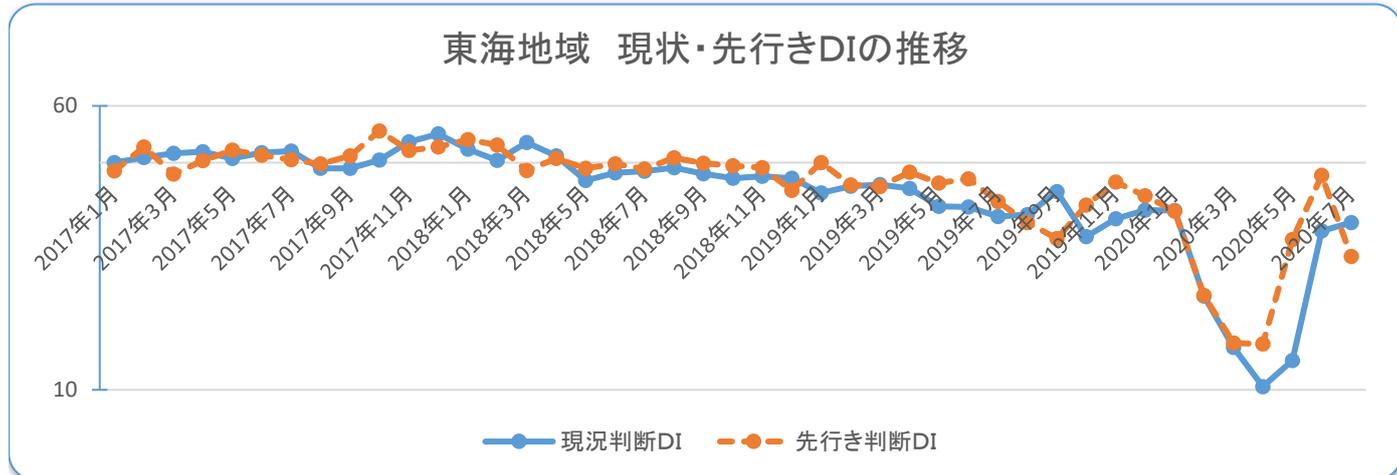


東海地域 現状・先行きDIの推移



◆東海地方 2020年7月 景気判断理由 一部抜粋

	分野	判断	判断の理由、追加説明及び具体的状況の説明、回答者属性
現状	家計動向関連	やや良	《販売量の動き》新型コロナウイルス感染拡大の時期と比較して来客数、販売量共に改善傾向で、特に米飯などの重点管理商品に顕著に現れている。【コンビニ（エリア担当）】
		不変	《お客様の様子》新型コロナウイルスの影響で大変困っている。最近感染者も増加しているため、客も敏感に反応しているように見受けられる。【一般レストラン（従業員）】
		やや悪	《販売量の動き》新型コロナウイルスの影響で商業施設の工事に延期や中止となっている案件がある。その他の建築に関しても見通しが立たず、契約が少なくなっている。【住関連専門店（営業担当）】
	企業動向関連	やや良	《その他》例年よりも雨の日が多い上に、新型コロナウイルスの影響はまだ続いている。公共交通機関利用者は少しずつ回復傾向にあるが、売上は前年同期を大きく下回っている。【不動産業（経営者）】
		不変	《受注量や販売量の動き》新型コロナウイルスの影響により休業等が発生し、数か月前から受注量等も変動はなく、横ばい状態が続いている。【電気機械器具製造業（経営者）】
		やや悪	《取引先の様子》取引先の中には、新型コロナウイルスの影響で受注量が減り稼働率が下がっているところがあり、臨時休業の連絡も来ている。【窯業・土石製品製造業（社員）】
	雇用関連	やや悪	《求人数の動き》業績の良しあしにかかわらず新型コロナウイルスで一旦止まった求人の中から、戻ってきた求人がある。【民間職業紹介機関（支社長）】
		不変	《求人数の動き》全体的な求人数は低迷している。特に自動車、ホテル関係は低迷が続いている。一部では求人数が増えているが、全体的には悪いままである。【職業安定所（職員）】
		やや悪	《求人数の動き》新型コロナウイルス感染拡大の影響等から、建設業では新規求人数が前年同月から増加しているものの、製造業を始めその他の産業では、前年同月から新規求人数が大きく減少している。【職業安定所（次長）】
先行き	家計動向関連	やや良	新型コロナウイルスの第3波が来なければ、確実に回復する。第3波が来たとしても、第1波、第2波での経験が活き、経済へのダメージを最小化しつつ対応できると考える。【一般小売店【土産】（経営者）】
		不変	新型コロナウイルスの第2波への警戒から食品スーパーには追い風となるかもしれないが、帰省や行楽関連の消費がない分、大きな伸びは見込めない。【スーパー（ブロック長）】
		やや悪	県内でも7月中旬から、また新型コロナウイルス感染者が増えている。売上は見当が付かない。少しの先もみえず、今は最低限のスタッフで店を営業している状態である。【一般レストラン（経営者）】
	企業動向関連	やや良	新型コロナウイルスの終息を迎え、客先の業界も活気を取り戻し、設備投資も増えるのではないかと期待も込めて、景気は良くなるのではないかと見込む。【電気機械器具製造業（経営者）】
		不変	やや良くなると思うところであるが、7月の新型コロナウイルスの状況では、物流の回復はまだまだ先になりそうに感じられ、全く見通しが立たない。【輸送業（従業員）】
		やや悪	直近の新型コロナウイルスの感染拡大もあり、やや緩んだ感染対策を再度強化する企業が増えてきている。これが続くと、景気は更に悪化するとみられる。【金融業（企画担当）】
	雇用関連	やや良	最大手の自動車メーカーにおいては、新型車種や北米向け輸出の生産ラインは上向きに推移し、別の大手自動車メーカーも徐々に良くなっている。厳しい状況が続く自動車メーカーもある。【アウトソーシング企業（エリア担当）】
		不変	6月に新規求人数の減少幅はやや縮小したが、最近の新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、先行きは厳しい。【職業安定所（所長）】
		やや悪	新型コロナウイルスの感染拡大傾向が顕著となり、新規求人数の減少傾向が続いている。また、事業主都合による離職者が増加傾向となっている。【職業安定所（次長）】